

東西条スマイルプラン～心に響く体験を生かした道德の時間の年間指導計画（第3学年）

テーマ: 見つけよう まちのわ ふくらまそう こころのわ

学校教育目標

豊かな心をもち、たくましく生きぬく子どもを育成する

道德教育重点目標

進んで学ぶ子
命を大切にする子
手をつなぐ子

めざす3年生の子どもの姿

- 自分のよいところ 友だちのよいところを見つける
- 自分でできることを進んで実行する

道德の時間の重点内容項目

2 - (2) 思いやり・親切 ・ 3
- (2) 生命尊重 ・ 4 - (2) 勤労
・ 社会奉仕 ・ 4 - (4) 愛校心
4 - (5) 郷土愛

● 重点内容項目の指導構想

学期	教科・特別活動など	総合的な学習の時間	道德の時間		常時活動
			ロング ユニット	ショート ユニット	
一 学 期	社会 「わたしたちのま ちみんなのまち」 理科 「たねをまこう」	見つけよう いいとこ		福祉施設 の見学	読書タイム・わくわくチャレンジ ふれあいそつじ・ふれあいサーキット
		○ 学校のいいとこを探そう ○ 地域のいいとこを探そう ○ 福祉施設の見学しよう ○ 東西条いいとこマップを作ろう	2 - (3) 4 - (4) 4 - (5)	2 - (2) 2 - (1)	
二 学 期	国語 しょうかいしよう 「お気に入りの場 所」 図工 「未来のわたした ちのまち」 理科 「植物の一生」	見つけよう まちのわ		コスモ スで体 験活動	読書タイム・わくわくチャレンジ ふれあいそつじ・ふれあいサーキット
		○ 地域のいいとこを紹介しよ う ○ 福祉施設「コスモス」のみな さんと一緒に作ろう、遊ぼう ○ 人に優しい[東西条未来マッ プ]をつくろう	4 - (5) 1 - (3) 2 - (2) 3 - (2)	2 - (1) 4 - (2)	
三 学 期	国語 「命の大切さ」 社会 「よりよいくらし について話し合お う」	ふくらまそう 心のわ		ボラン ティア 活動	読書タイム・わくわくチャレンジ ふれあいそつじ・ふれあいサーキット
		○ ボランティアにチャレンジ しよう ・ 学校の中でできることをしよ う ・ 地域に対してできることをしよ う	2 - (4) 3 - (2) 4 - (2)	1 - (2) 4 - (1)	

(太字が重点項目)

第3学年1組 道德学習指導案

大切な生命

「ヒキガエルとロバ」【価値探求型】 3—(2) 生命尊重

出典『道德の資料3』文部省（現文部科学省）

本時のねらい

生命の尊さを知り，生命あるものすべてを大切にしようとする心情を育てる。

心のバロメーターを活用する授業

指導者 東広島市立東西条小学校 榎木 京子

1 主題設定の理由

ねらいとする価値

何かに夢中になれるのも，喜んだり，悲しんだりできるのも生きているからこそである。かけがえのない生命の重みを感じるからこそ，共に精いっぱい生きていこうという気持ちも生まれてくる。

生命は1回限りのものであり，失えば二度とよみがえらせることのできないかけがえのないものである。これは，地球上のすべての生物にとって共通することである。どんな小さな生き物にも生命があり，必死に生きようとしている。その生命は人間と同じようにかけがえのないものであり尊いものであることが実感できるようにし，生命を大切にしようという心情を育てることをねらいとする。生きているとはどういうことかを3年生の児童なりに考えることが，これからの児童自身の充実した日々につながる。

心に響く資料

本資料は，生命の危険を感じる場所にいながら，自力では何もできないヒキガエルを前に，残酷な目を向ける子どもたちと，自分も苦しい立場にありながら，ヒキガエルの命をなんとか助けようとするロバの姿が対比的に描かれている。児童にとっては感動的な資料である。

始めヒキガエルに対して遊び半分だったアドルフたちが，ロバの優しい行動を目の当たりにすることで変容していく心に焦点を当てることによって，生命尊重の道德的価値を高めることができる。

価値の自覚を深める工夫

展開前段では，場面の絵とヒキガエルの写真を提示し，アドルフたちの行動を動作化させ，その行動の意味を理解させたい。そして，ロバが，動く力もないヒキガエルをじっと見つめ迷っている気持ちを，場面の絵を提示しながら考えさせていき，それを見ているアドルフたちの気持ちを自分と重ね心のバロメーターを使ってつかませていきたい。

また，アドルフの手から，石が静かに滑り落ちていった時の気持ちをワークシートに書かせることによって，個々の考えを明確にさせていきたい。そして，なぜそう思ったのかについて考えるようにし，気持ちの変容を心のバロメーターを使って表現することで，生命に対する主題に迫るようにしたい。

児童の実態

本学級の児童は，生き物に対する興味や関心が高く，草むらで捕まえてきては，飼育ケースで飼っている。それぞれに草を入れたり土を入れたりしながら，生き物に対する優しい気持ちで接している。また，弱ったり死んでしまったりした生き物を，草むらに逃がしたり埋めたりしている。反面，道ばたでへびやとかげなどを見つけると，棒でつついたり，石をぶつけようとしたりする等の行動に出ることもある。そこで，生命について考えることを通して，どんな生き物にも生命があり，大切にしていこうとする心情を深めていくことができると思う。

2 本時の指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
導入	1 今までに飼ったことのある生き物について発表する。 今までにどんな生き物を飼ったことがありますか。 ・カブトムシ・バッタ・犬・猫・金魚・亀など	○アンケートをもとに今までの体験を振り返って発表させる。
展開前段	2 資料「ヒキガエルとロバ」の前半を聞き、話し合う。 ○アドルフたちはどんな気持ちで、ヒキガエルに石をなげたのでしょうか。 ・気持ち悪いなあ。 ・早くどこかへ行ってしまえ。やっつけてやろう。 ○荷車を引いてきたロバが、ヒキガエルを見つめているのを見て、アドルフはどんなことを考えていたでしょう。 ・さっさと行けばいいのに。おもしろいぞ。 ・かえるがもう少しで引かれるぞ。 ・どうしたのかな。 ○ロバは、どうしようとしているのだろう。 ・このまま行こうか。 ・よけようか。しんどいなあ。 3 資料の後半を聞き、話し合う。 アドルフの手から石が静かに滑り落ちていった時、どんな気持ちになったでしょう。 ・ロバは自分も苦しいのに小さいヒキガエルを助けている。 ・おもしろ半分にして悪かった。 ・どんな生き物も生命を大切にしなければいけない。	○アドルフたちの気持ちを考えながら聞くように助言する。 ○写真と動作化を手がかりに、アドルフたちの気持ちに近づけるようにする。 ○絵を提示して、ロバを見ているアドルフのヒキガエルに対する気持ちを考えさせる。心のバロメーターを使って、アドルフの心に重ねて自分の気持ちを表すことができるようにする。 ○ロバのおかれている状況を把握させることで、ロバの気持ちを考えることができるようにする。 ○石が滑り落ちた時のアドルフの気持ちをワークシートに書かせ、ヒキガエルの生命について深く考えることができるようにする。心のバロメーターを使って心の変容が実感できるようにする。
展開後段	4 今までの自分を振り返る。 今まで、生き物などの命を大切にしようとしたことがありますか。 ・昆虫を捕まえたけど弱ってきたので草むらにもどした。 ・カブトムシの世話を毎日し、卵を産ませ次の年に成虫にした。	○生き物に関する児童の生活体験を振り返り、生命の大切さについて考えさせる。
終末	5 教師の説話を聞く。 生き物を大切にすることについて先生の体験を聞きましょう。 ・小さな生命も大切にしていこう。	○生命を守ろうと、生き物に優しい気持ちで接した事例を話す。

○基本発問 中心発問 今までの自分を見つめる発問 これからの自分を見つめる発問

3 教師の評価の観点

- 生命を尊重しようとする気持ちが高まったか。
- 心のバロメーターを使って気持ちの変化を表示したり、吹き出しを書いたりしたことは、価値を高めるのに有効であったか。

4 児童の自己評価の観点

アドルフたちの気持ちを自分と重ねて考えることができたか。
 どんな生き物にも生命があり、その生命の大切さに気付くことができたか。

5 資料

ヒキガエルとロバ

前半をここで切る。

いた。

くぼみの中のヒキガエルは、もうつくく力もないようだった。ロバは、目をしていて小さな生きものに鼻を近づけ、友だちをみるようなやさしい目でじっと見つめつづけていた。

雨上がりののはたけ道。学校帰りのアドルフとピエールたちの前にヒキガエルが一ぴきとびだしてきた。

「うわっ、なんだ！」

「気もちわるい！」

「ヒキガエルだぞ。石をぶつけてやれ！」

子どもたちは、口々にそうさげびながら、ヒキガエルめがけて、小石を投げつけはじめた。

「当たった、当たった。」

「おい、もっと石をもつてこいよ。」

アドルフに言われて、ピエールたちは、道ばたから石をあつめてきた。

ヒキガエルは、子どもたちにおわれながら、どろんこ道にある車のわだちへころがりこんだ。わずかに水にたまっているそのくぼみの中で、ほととした気もちになったようだ。ゆっくりと体につけられたきずをあらいはじめた。

ちようどそのとき、年をとった、やせたロバが荷車を引いてやってきた。

荷車や、せなかにしよっている大きなこには、やさいがいつぱいにつまれている。荷車にのつた農夫から、たえずピシリピシリとむちでうたれていた。ロバは、へとへとになりながら、一步一步ふみしめるようにどろんこ道をすすんできた。

「アドルフ、ヒキガエルのやつ、荷車にひかれるぞ。」

「そつちをみているほうがおもしろそうだ。」

アドルフたちは見まもった。

ガタン ゴトン ギタン ゴトン。くぼみにロバが近づいてくるが、さかみちはでこぼこで、なかなか前にすすまない。

農夫は、ぐいぐいとたづなを引っ張り、むちをうちつづける。

「ハア、ハア……」

ロバのいきがあらくなる。一步一步近づいてきたロバは、そのときふと、自分の足もとで、きずをおってじっとしているヒキガエルに気がつ

農夫は、きゆうに前にすすまなくなったロバに、はらを立て、なんともむちをつっている。

「ヒーン！」

とつぜん、ロバはいなくなると、ぐーんと足をふんばった。自分につたすべての力をふりしぼるかのように、歯をくいしばって足に力を入れた。せおったかこがよこにふられた。おもいやさいがたくさんつんである荷車も少しうごいた。ロバの顔はさらにくるしそつになった。

そしてついに、車りんのむきはかわり、荷車は、ヒキガエルのいるくぼみのよこを、ガタン ゴトンと大きな音を立てながら通りすぎたのだ。

ヒキガエルはたすかった。

それを見ていたアドルフの手から、石が足もとにすべりおちていった。ピエールたちも、なにも言わずに立っている。

やがて、荷車の音も、ロバのうれしそうななきも遠くになっていった。子どもたちは、くぼみの中で小さくいきをしているヒキガエルと、遠くさつていくロバのすがたを、いつまでもいつまでも見つめていた。

6 資料分析と板書

学習活動と 主な発問	資料場面	登場人物の心の動き	児童の意識の流れと板書計画	道徳的価値の 自覚化
アンケートをもとに今まで飼ったことがある生き物について話し合う。 資料の前半を聞いて、話し合う。 子どもたちはどんな気持ちで、ヒキガエルに石を投げたのでしょうか。	「うわっ、なんだ！」 「気もちわるい！」 「ヒキガエルだぞ。石をぶつけてやれ！」 「当たった、あたった」 「おい、もっと石をもってこいよ」 「アドルフ、ヒキガエルのやつ、荷車にひかれるぞ」 「そっちを見ているほうがおもしろそつだ」	きみわるいなあ。 早くどこかへ行けよ。 やつつけてやろつ。	ヒキガエルの写真 ・こわい ・気持ち悪い 石を投げているとき アドルフたちの絵 ・気持ちわるい ・ぶかつこうだ ・早くどこかへ行け ヒキガエルと鼻をつきあわせているとき ・早く引けばいいのに。 ・何を話しているのだろう。 口バの絵 ・このまま行こうか。 ・よけようか。 遠くさつていく口バを見ているとき ・口バは自分も苦しいのに ・小さなヒキガエルをたすけた。 ・はずかしい。もう、生き物をいじめるのはやめよう。 ・どんな生き物にも生命があるんだ。大切にしなければ。 心のバロメーター	【生命尊重】 3―(2) ヒキガエルに嫌悪感をもっている。 小さい生き物に対しての優越感をもっている。 荷車にヒキガエルがひかれるのを期待してみている。
資料の後半を聞いて、話し合う。 荷車を引いてきた口バがヒキガエルを見つめているのを見てアドルフたちはどんなことを考えていたでしょう。 口バは、どうしようとしているのだろう。 アドルフの手から、石が滑り落ちたとき、どんな気持ちになったでしょう。 吹き出しにアドルフの気持ちを書いてみましょう。 今まで、生き物を大切にできたことがありますが。 先生の話を聞きましょう。	口バは、目をとじているヒキガエルに鼻を近づけ、友だちを見るようなやさしい目でじっと見つめつづけていた。	かえるがもう少しでひかれるぞ。 おもしろい。 早く引けばいいのに。 なんで止まったのかな。 何か話してるぞ。	口バは自分も苦しいのに小さいヒキガエルをたすけている。それに比べて僕たちのしたことは恥ずかしい。なんてことをしたんだ。小さくたって命があるんだ。大事にしなければ。	口バの行動に心を動かされ、気持ちを变容していく。 生き物に優しく接し生命を大切にしようとする心情がわく。 小さな生き物の命も大切にしよう。